

7. 各大学提供科目

・ 対面授業科目

対面授業			14001			
授業科目名:生物学			担当教員氏名: 小林 英紀			
Biology						
1～4年次	2単位	後期	1コマ			
<p>【授業の目的】</p> <p>私たちが毎日摂取する栄養には、3つの異なる役割がある。その3つとは、(1)体を作るために必要な材料であり、(2)エネルギーの元であり、(3)体が円滑に動くための潤滑油である。(1)体を作る材料は、化学物質として蛋白質、脂質、糖などである。また、(2)エネルギー源となる化学物質は糖と脂質が、主である。(3)潤滑油となる化学物質は、ビタミンや、ミネラルである。蛋白質、脂質、糖、ビタミンはどのような化学構造(分子構造や元素)をもつ物質であり、ヒトの体の中で、どのように体を作る材料や、エネルギー源になるのか、理由を理解することが、この講義の主な目的とする。</p> <p>基礎生物学では、体の仕組みの中で器官と呼ばれるものの役割やお互いの関係を知ることを目的とするのに対し、この生物学では、体を構成するもっとも小さい生命単位である細胞がどのようにつくられるのか、栄養は細胞の中でどのように役立つのか、化学分子のレベルで理解することを目的とする。この為、蛋白質や糖、脂質を有機化学の言葉で理解するので、有機化学の基礎も学ぶ。基礎生物学とあわせてヒトの生きる仕組みが理解できるようになる。</p>						
<p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>1 生命とはなにか? ヒトの体の構成は、大きな単位として器官組織があり、最も小さい単位は細胞である。</p> <p>2 細胞とはなにか? 細胞の形や働きについて。また、細胞を構成する細胞内小器官の役割の概要について。</p> <p>3 細胞内小器官の役割-1</p> <p>4 細胞内小器官の役割-2</p> <p>5 代謝の仕組み-1</p> <p>6 代謝の仕組み-2</p> <p>7 酵素とは-1</p> <p>8 酵素とは-2</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>9 体をつくる糖質の化学的特徴と細胞での存在部位は?</p> <p>10 糖質はヒトの活動のエネルギー源となる。エネルギーとはなにか? ATPとはなにか?</p> <p>11 デンプンを口に取り入れてからATPができるまでの仕組み。</p> <p>12 呼吸をして酵素を取り入れるのは何のためか?</p> <p>13 ミトコンドリアの働きについて。</p> <p>14 遺伝の仕組み。</p> <p>15 たんぱく質の合成の仕組み。</p> </td> </tr> </table>					<p>1 生命とはなにか? ヒトの体の構成は、大きな単位として器官組織があり、最も小さい単位は細胞である。</p> <p>2 細胞とはなにか? 細胞の形や働きについて。また、細胞を構成する細胞内小器官の役割の概要について。</p> <p>3 細胞内小器官の役割-1</p> <p>4 細胞内小器官の役割-2</p> <p>5 代謝の仕組み-1</p> <p>6 代謝の仕組み-2</p> <p>7 酵素とは-1</p> <p>8 酵素とは-2</p>	<p>9 体をつくる糖質の化学的特徴と細胞での存在部位は?</p> <p>10 糖質はヒトの活動のエネルギー源となる。エネルギーとはなにか? ATPとはなにか?</p> <p>11 デンプンを口に取り入れてからATPができるまでの仕組み。</p> <p>12 呼吸をして酵素を取り入れるのは何のためか?</p> <p>13 ミトコンドリアの働きについて。</p> <p>14 遺伝の仕組み。</p> <p>15 たんぱく質の合成の仕組み。</p>
<p>1 生命とはなにか? ヒトの体の構成は、大きな単位として器官組織があり、最も小さい単位は細胞である。</p> <p>2 細胞とはなにか? 細胞の形や働きについて。また、細胞を構成する細胞内小器官の役割の概要について。</p> <p>3 細胞内小器官の役割-1</p> <p>4 細胞内小器官の役割-2</p> <p>5 代謝の仕組み-1</p> <p>6 代謝の仕組み-2</p> <p>7 酵素とは-1</p> <p>8 酵素とは-2</p>	<p>9 体をつくる糖質の化学的特徴と細胞での存在部位は?</p> <p>10 糖質はヒトの活動のエネルギー源となる。エネルギーとはなにか? ATPとはなにか?</p> <p>11 デンプンを口に取り入れてからATPができるまでの仕組み。</p> <p>12 呼吸をして酵素を取り入れるのは何のためか?</p> <p>13 ミトコンドリアの働きについて。</p> <p>14 遺伝の仕組み。</p> <p>15 たんぱく質の合成の仕組み。</p>					
<p>【テキスト】</p> <p>『「生物学」ヒトの環境と生命科学』, 川崎祥二・古庄 律 編著, 建帛社 『視覚でとらえるフォトサイエンス』, 生物図録 数研出版編集部 編, 数研出版</p>						
<p>【参考図書】</p> <p>Essential 細胞生物学 中村佳子, 松原謙一訳, 南江堂</p>						
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席と授業への取り組み(40%)、レポートと最終試験(60%)の成績を基準に成績を評価する</p>						

7. 各大学提供科目

対面授業				14002																
授業科目名:衛生学			担当教員氏名:嶋田 義弘																	
Hygiene																				
3～4年次	2単位	前期	1コマ																	
【授業の目的】 健康で幸せな生活を営むためには日常的に清潔な環境の維持が大切である。特に、食物を扱う者にとっては衛生学的知識に基づく十分な配慮が不可欠である。本講では、生活環境を中心とする衛生学的知識を科学的な見地から系統的に学習する。それにより、社会あるいは家庭において、人びとの健康を維持増進していくための基礎知識を身につける。また、管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での十分な実力を身につける。																				
【授業内容】 <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1 環境と健康</td> <td style="width:50%;">9 産業保健－職業病</td> </tr> <tr> <td>2 環境衛生－大気</td> <td>10 学校保健</td> </tr> <tr> <td>3 環境衛生－水</td> <td>11 社会保障</td> </tr> <tr> <td>4 環境衛生－放射線</td> <td>12 社会保障</td> </tr> <tr> <td>5 環境保全－大気汚染と健康</td> <td>13 高齢者保健</td> </tr> <tr> <td>6 環境保全－水質汚濁と健康</td> <td>14 国家試験問題の演習</td> </tr> <tr> <td>7 国家試験問題の演習</td> <td>15 まとめと国家試験問題の演習</td> </tr> <tr> <td>8 産業保健－現状と対策</td> <td></td> </tr> </table>					1 環境と健康	9 産業保健－職業病	2 環境衛生－大気	10 学校保健	3 環境衛生－水	11 社会保障	4 環境衛生－放射線	12 社会保障	5 環境保全－大気汚染と健康	13 高齢者保健	6 環境保全－水質汚濁と健康	14 国家試験問題の演習	7 国家試験問題の演習	15 まとめと国家試験問題の演習	8 産業保健－現状と対策	
1 環境と健康	9 産業保健－職業病																			
2 環境衛生－大気	10 学校保健																			
3 環境衛生－水	11 社会保障																			
4 環境衛生－放射線	12 社会保障																			
5 環境保全－大気汚染と健康	13 高齢者保健																			
6 環境保全－水質汚濁と健康	14 国家試験問題の演習																			
7 国家試験問題の演習	15 まとめと国家試験問題の演習																			
8 産業保健－現状と対策																				
【テキスト】 『社会・環境と健康』, 田中平三・辻一郎・吉池信男 編, 南江堂																				
【参考図書】 『基礎衛生・公衆衛生学』, 緒方正名 編, 朝倉書店 『国民衛生の動向』, 厚生統計協会																				
【成績評価の方法】 試験 90 点, 授業態度 (小テストを含む) 10 点の総合点で行う。																				

7. 各大学提供科目

対面授業				14003
授業科目名:栄養教育論 I			担当教員氏名:村上 淳	
Nutrition Education				
2～4年次	2単位	後期	1コマ	
【授業の目的】				
<p>栄養教育論では、栄養学に関する知識を駆使し、食事を通して健康管理に関するサービスを提供していくために必要となる実践手法の理論を学ぶ。この栄養教育論 I では、栄養教育に関する総論的な内容をはじめ管理栄養士と栄養士の違い、栄養教育の現代の流れについて学び、現代の食生活を把握し、栄養教育の総論的内容について講義を行うことで、管理栄養士と栄養教育についての知識を習得する。</p> <p>栄養教育の概念が理解でき、「健康づくり」での管理栄養士の役割や活躍の場の認識することができる。栄養教育現場に必要な法的背景を理解し、現代の健康・栄養状態・食行動・食環境およびライフステージ特性と栄養教育的視点に関する知識を確立する。また栄養教育を行うに必要な、一連のマネジメントについての基礎知識(サイクル, 方法, 計画, 実施, 評価)を修得する。</p>				
【授業内容】				
1 栄養教育の今① 食環境づくりと私たちの健康および栄養教育	9 世代別栄養教育③ ライフステージ 思春期・若年成人期の健康栄養教育	10 世代別栄養教育④ ライフステージ 成人・壮年期の健康栄養教育	11 世代別栄養教育⑤ ライフステージ 高齢期の健康・栄養教育	12 世代別栄養教育⑥ ライフステージ 障がい者の健康・栄養教育
2 栄養教育の今② 健康づくりと健康食品の利用	13 栄養教育理論① 栄養教育マネジメント (PDCA, アセスメント)	14 栄養教育理論② 栄養教育の方法 (学習形態, 教材, 媒体など)	15 まとめとディスカッション	
3 栄養教育の今③ 近年の健康教育・栄養教育と環境づくり				
4 栄養教育の概念① 栄養教育の定義とその目的および目標(食と関連問題の俯瞰)				
5 栄養教育の概念② 管理栄養士と栄養士の役割、近代栄養教育の歴史、現代栄養教育の歴史				
6 栄養教育の概念③ 栄養教育の場、栄養に関連する法律と社会的背景・制度				
7 世代別栄養教育① ライフステージ 妊娠・授乳期の健康・栄養教育				
8 世代別栄養教育② ライフステージ 幼児・学童期の健康・栄養教育				
【テキスト】				
『エキスパート 栄養教育論』, 川田智恵子・村上 淳 編著, 化学同人				
【参考図書】				
その他 その都度提示する。				
【成績評価の方法】				
定期試験の成績(80%), 提出物等(受講態度も含む)(20%)を総合して評価する。				